



## 只今工事中、横須賀中央 西友跡地について

県では市街地再開発事業に補助をしています。

市街地再開発事業とは、低層の建築物が密集している市街地において、それを統合し安全で快適な都市環境を創造しようとするものです。

県では、23年度は9カ所の再開発に補助しました。その中の一つが、横須賀市大滝町二丁目、つまり横須賀中央の西友が入っていたビルの周辺の再開発です。完成すると、地上38階、地下2階、まさに横須賀のランドマーク的な建物になります。実は、この事業は平成20年度から27年度までの補助事業とされていましたが、リーマンショック、東日本大震災などの影響で工事に着手するのが遅れていました。西友が閉店したのが今年の春。計画から4年あまりの歳月が経過しました。

この点について、決算特別委員会で質問したところ、「平成27年度中には、完成するように計画を進めています。」という答えが返ってきました。



市街地再開発事業…横須賀中央の西友があったビルがその事業で新しく生まれ変わると聞いたとき、中央駅付近が更に活気づくと、とてもうれしく思いました。「さいか屋」跡の民間の開発のように、東日本大震災の影響で資材価格が高騰した為に工事を一時中断せざるをえない残念な事例もあります。

この県の補助事業である再開発は、横須賀中央のまちづくりの核となる事業です。完成までしっかりと見守っていきたいと思います。

(写真は2012.11/8に撮影しました)



## がん研 有明病院～緩和ケアの取り組み～



がん撲滅をめざす議員連盟の視察で、「がん研有明病院」へ行ってきました。

がん研病院は、日本で最初に出来たがん専門病院です。1908年、癌研究会創立。総裁・桂太郎氏、副総裁は渋澤栄一氏でした。「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」を基本理念に研究所と病院を開設。

1世紀にわたる歴史を通じて、日本のがん研究とがん医療を主導してきました。特筆すべきは、民間の研究機関・病院であることです。

この病院の第一の特長は、電子カルテシステムを活用したチーム医療です。チーム医療のめざすものは①迅速②透明性③安全性。

担当医師を中心として、各分野の医師や、看護師、薬剤師などが集結し、専門知識を持ち寄って検討することにより、患者さん1人ひとりの病状に応じた最良の医療を施すことが出来ます。

また、呼吸器・消化器など臓器別に治療チームを結成し、疾患別外来で対応しています。その結果、患者さんがあっちこっちに移動しなくても、各ゾーンで生理検査や採血・内視鏡検査などを行う事ができます。

第二の特長は、緩和ケア。

緩和ケア=終末期医療、ではないと考える有明病院。

心や身体の苦痛の治療を専門とする緩和ケア医、腫瘍精神科医、認定看護師を軸とするチーム医療により、苦痛ゼロ、最後まで見放さない医療を実現しています。

この治療により、生きる力が湧き、退院される患者さんも……。

この分野は、日本が立ち後れている分野でもある為、医大生が卒業前には是非学んでもらいたいとおっしゃっていました。

ベット数700、15の手術室を持つ「がん研有明病院」。最高の医療を提供すると共に、「患者さんの権利」を尊重した、優しく心の通った医療の実践を目指しているそうです。

(2012.11/15 記)